

	目的・目標	内 容	単 位 (時間)	方 法	進 度
小 児 看 護 学 実 習	I. 健康な小児を理解する。 II. 小児の日常生活とその援助について理解する。 III. 小児にとっての遊びの重要性を理解する。	【保育所実習】 1. 子どもの成長・発達を理解する。 2. 子どもの日常生活の自立度を理解する。 3. 子どもとの関係形成方法を理解する。 4. 子どもの成長・発達、日常生活の自立度(個別性)に応じた援助方法を理解する。 5. 子どもの遊びとその重要性を理解する。	2 90	【臨地】 場所：郡山市内保育所 星ヶ丘保育園 ほしのご保育園 三春第一保育所 三春第二保育所 期間：2日間 形態：保育士の指示のもと補助的立場で保育活動に参加する	4年次 前期
	IV. 心身障害のある小児を取り巻く環境を理解する。 V. 心身障害のある小児に対する看護の役割を理解する。 VI. 障害が子ども及びその家族に及ぼす影響について考える。	【施設実習】 1. 障害のある小児の生活の場を理解する。 2. 障害のある小児に関する社会資源を理解する。 3. 障害のある小児を取り巻く他職種(P.T・O.T・S.T等)の役割と連携の必要性を理解する。 4. 障害のある小児の療育の場および日常生活の場に参加し援助の方法を理解する。 5. 障害のある小児に応じたコミュニケーション方法を理解し、対象理解に活用できる。 6. 家族と離れ、集団生活を送る子どもの気持ちや家族が障害を持つ子どもをどのように受け止めているか考える。		場所：福島県総合療育センター 期間：4日間 形態：受け持ち児を中心にスタッフの指示のもと補助的立場で療育活動に参加する。	4年次 前期 ～ 後期
	VII. 健康問題をもつ小児に対し、成長発達段階、病態に応じた看護の必要性を理解する。 VIII. 健康問題が小児及びその家族に及ぼす影響を把握し、対象に応じた看護を理解する。 IX. 小児看護に必要な基本的看護技術の方法を理解する。 X. 継続看護の必要性を確認し、看護者の役割を理解する。	【小児病棟・小児科外来実習】 1. 対象の特性を身体的・精神的・社会的側面から理解する。 2. 対象との関わりを通し、健康問題が小児及びその家族に及ぼす影響について考え、必要な援助を考える。 3. 対象の発達段階・自立度に応じた援助を考え、看護を提供する。 4. 診察介助や与薬・検査・処置の援助を見学または一部実施し、小児看護に必要な看護技術の方法を理解する。 5. 小児病棟実習・小児科外来実習を通して、継続看護を視野に看護者の役割を理解する。		【臨地】 場所：星総合病院 期間：5.5日間 形態：受け持ちスタッフと共に患児の看護活動に参加する。 小児科外来を見学(0.5日間)看護師の指示のもと補助的立場で参加する。 【学内】 場所：ポラリス保健看護学院 期間：0.5日間 形態：個人ワーク 小児看護学実習のまとめ	